

ドローンを活用した河川巡視・点検への適用検討会(第2回) 議事要旨

日時：令和7年7月22日13:00~15:00

場所：ビジョンセンター東京虎ノ門 501A号室 (WEB 併用)

委員からの技術的助言及び意見は以下のとおり。

(1) 実証試験の実施報告(速報版)

- 三次元化することで河道内に生息する樹木の樹種判定等も可能となるため、三次元による把握は非常に有効である。
- 取得した膨大なデータをどう活用していくのが重要であり、サイバー空間での活用なども考える必要がある。
- 複数機による同時運用等についても必要であると考えられるため検討が必要である。
- ドローンと車両のそれぞれで確認できる有効な場面があるため、ドローンと車両で各巡視・点検項目毎に仕分けが重要であるとする。
- 活用の面からするとレーザー使用時の検証点と位置合わせの精度、データの処理について整理が必要である。
測定の内容を入れるとなると測量法により資格等が必要となるため、公共測量とは切り分けて考えるべきである。
- 5年に1回行う河川定期縦横断や出水後の点検など、それぞれで行っている場面毎に求められるものが異なるため、整理することが必要である。
- 従来の河川巡視・点検では発見できなかったものもあると思われるため、その場面の整理をし、議論を進めるべきとする。
- 現在の巡視規程や点検項目は車両によって確認できることを前提としており、本来確認すべき目的を整理したうえで河川巡視・点検項目を整理する必要があるとする。
- 電波環境や橋梁上空通過など、レベル3.5飛行特有の課題への検討が必要とする。
- 離発着場を搭載した車両の開発も進んでいるため、検討に加える必要があるとする。

(2) AIによる取得したデータの異常検出の進め方

- 画像をテキスト化し、連絡が入るような生成AIもあるため、検討すべきである。
- 教師データを準備するよりも、測量データを正値とした差分抽出の方が効率的であると考えられるため、ぜひ検討して欲しい。

以上